

【全体概要】

- ・当県では、県育成品種の早生茶豆「新潟系14号」の作付拡大による茶豆品種の継続出荷を推進している。
- ・このため、保温及び雑草の発生抑制のためのマルチ被覆と、は種作業を一工程で行うマルチ播種機を用いた直は栽培技術を、「新潟系14号」で確立し、新技術の導入を進めることで実需の求める品質及び量の確保による農家所得の向上を目指す。

新品種・新技術等の概要

1 新品種

○県育成早生茶豆「新潟系14号」(新潟県:2014年)  
露地作型で7月中旬からの出荷が可能、大莢が特徴で呈味成分含有量も多く、食味評価は高い。

2 新技術

○耕うん同時畝たて作業機によるエダマメマルチ直は技術  
(農研機構:2008年)

マルチ被覆と播種作業を一工程で行うことで、発芽の安定や雑草抑制が可能で、作型の前進化が図れる。



主な取組内容

1 実証ほの設置

- ・県内6カ所で実証ほを設置

2 検討会の開催

- ・中間及び成績検討会の実施

3 実需者への意向調査

- ・試食サンプルを送付しリモートによる意見交換等の実施

4 栽培マニュアルの作成検討

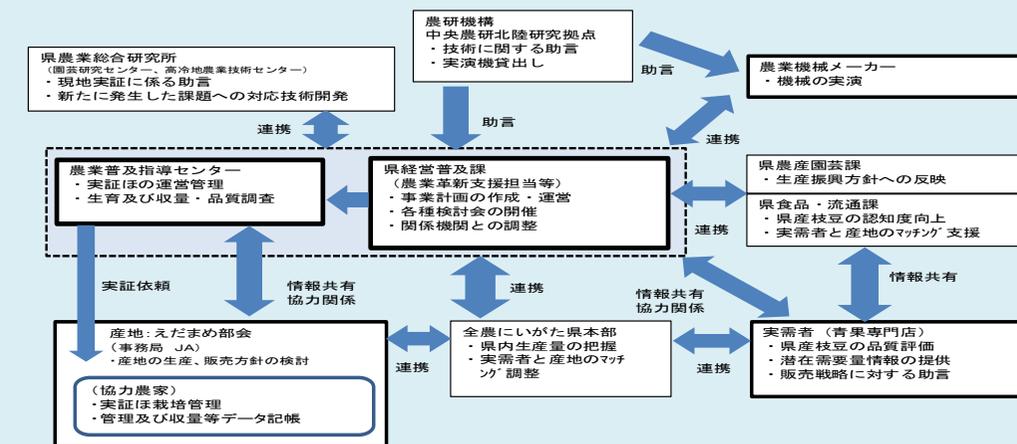


播種作業



収穫時の株姿

実施体制図



実績と今後の展開

1 実績

- ・実証では、マルチ被覆による発芽の安定、収穫時期の前進化、収量の増加を確認
- ・栽培マニュアル「新潟系14号のマルチ直は等栽培方法」を配布

新潟系14号栽培面積※ 25.9ha(R1) →53.8ha(R3)

※全農取扱面積

2 今後の展開

- ・排水対策や事前耕の方法について記載したマニュアルをもとに技術指導及び面積拡大を進める。
- ・マルチは種栽培での省力化及び品質の安定化を図るため元肥一発肥料について検討する。